

## 名古屋栄の久屋大通と中日ビル建て替え

名古屋都市センター「ニュースレター」2022年9月に、久屋大通の街並みの写真が掲載されていた。見慣れていた風景とは、かなり違ったものになっていた。特集を抜粋して紹介したい。

名古屋市は2013年「栄地区グランドビジョン～さかえ魅力向上方針～」を策定した。名古屋市はこのビジョンをもとに、民間による再開発を促進するためのルールづくりを行い、それをもとに新たな開発を誘導し、栄地区のさらなる魅力を創出しようとしている。2020年のテレビ塔リニューアルと久屋大通の再生もこの一環。



1966年に竣工した中日ビルは、半世紀にわたり栄を代表するビルとして親しまれてきた。遠くからでも目を引いた屋上の回転展望レストラン、エントランスの鮮やかなモザイク天井画、中日劇場、文化センター……懐かしく思い出す名古屋市民も多いだろう。今、2024年春の開業をめざして「中日ビル建て替え計画」が進んでいる。

新中日ビルは、旧ビルの愛称「中日ビル」を新ビルの正式名称に決定し、親しまれた旧ビルの記憶と遺産を継承し、地下5階、地上33階建ての超高層ビルに生まれ変わる。高層部にはハイグレードなホテル、中・低層部には久屋大通やテレビ等を一望できる屋上広場、多目的ホールなど、オフィス・商業施設に加えて、交流と発信を誘う新たな仕掛けを盛り込むことで、多くの人たちが楽しみ、憩い、働き、集う複合ビルをめざしている。地下鉄栄駅から続く地下街とビルは今まで通り接続され、歩行者ルートのバリアフリー化を図りながら中区役所方面はじめ栄のまちへの回遊性を高める。

また、最先端の耐震技術を導入した建物は、災害時に約1000人の帰宅困難者を受け入れ、地域の安全を確保する。

久屋大通「再生」計画が、こんな形になるとは思っていなかった。なんだか緑が少なくなり、ビルばかりが目立つようになった。久屋大通や栄地区の魅力は、これで向上するのだろうか。超高層ビルが林立する名古屋駅（名駅）地区と比べて、栄地区は空が見渡せ落ち着くことができた。名古屋に行ったときに、栄の変ぼうを確認してみよう。

中日ビルには懐かしい思い出が多い。中日劇場で演劇などを楽しみ、地下の食堂街で食事をした。地下には沖縄物産店もあり、沖縄茶などをかうためによく利用した。

名古屋のまちづくりについて、大阪と比較しながら話す準備をしている。名古屋の名駅と栄は、大阪でいうとキタ（梅田）とミナミ（難波）にあたる。巨大ターミナル名駅と梅田の開発に注目が集まるが、栄と難波の「都市魅力」についても調べてみたい。

(2022年10月9日)